

現在における

天文・天体物理の若手の考え

発表者 善光哲哉^[1]

若手代表者 野津湧太^[1]、谷本敦^[1]、一色翔平^[2]

[1]京都大学, [2]北海道大学

アンケートの目的

若手の軍事研究に対する意識調査
若手研究者の反応
今後の議論の方向性につなげる

アンケートの特徴

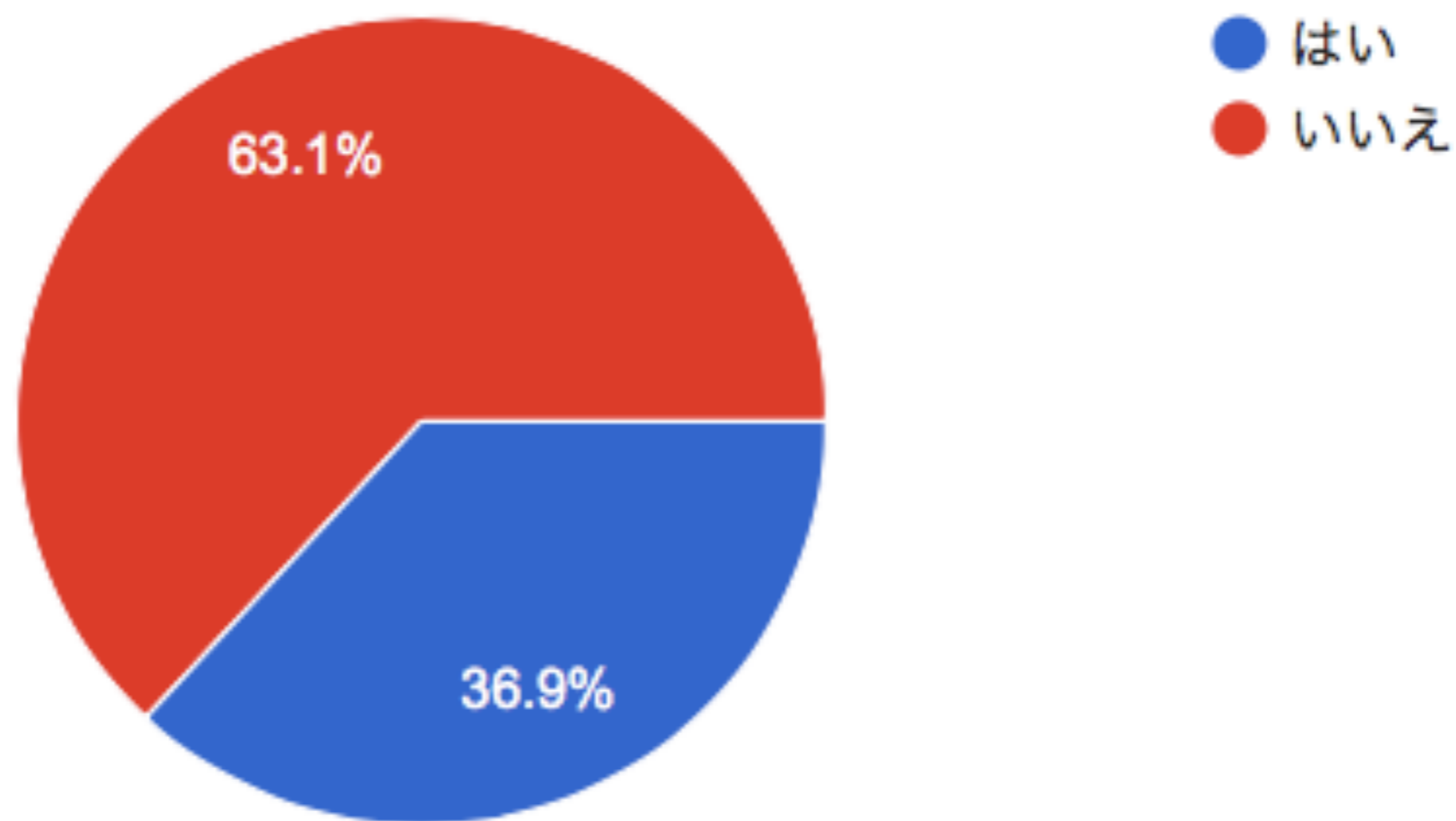
- ・ 無記名
- ・ 若手の会所属の全国の大学院生(修士課程&博士課程)
- ・ アンケート回答者
=>どんな形であれ関心があった人たちが答えている
=>若手の会の会員が約392人 ==> 16.6%(65名)が回答

アンケートの中身(質問項目)

- 1.安全保障技術研究推進制度の認知度
- 2.学術会議および天文月報の議論に対する関心
- 3.歴史的背景、衛星開発と軍事の関係の理解度
- 4.安全保障に関してどの程度まで関わって良いか
 - 国家間安全保障
 - 紛争地域の平和的利用
 - 宇宙技術を用いた防衛(デブリ、太陽フレア等)
 - 全部に関わらない
- 5.指導教員または研究機関の決断に対する対応
- 6.今回のような議論の有無
- 7.議論を継続していくべきか？

防衛省の安全保障技術研究推進制度について 知っていましたか？

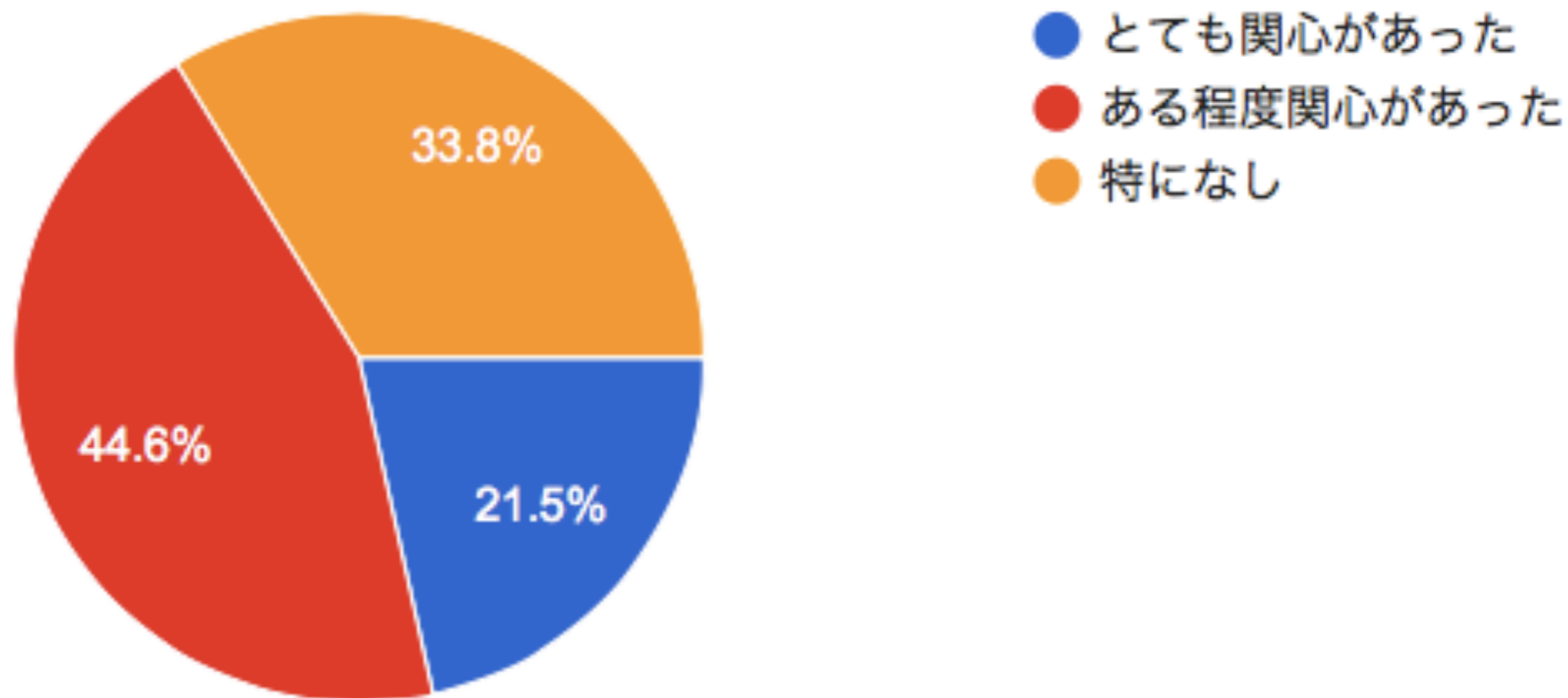
65件の回答



安全保障技術研究推進制度は認知されていない

学会会議や天文月報での議論について、どの程度関心がありましたか？

65件の回答



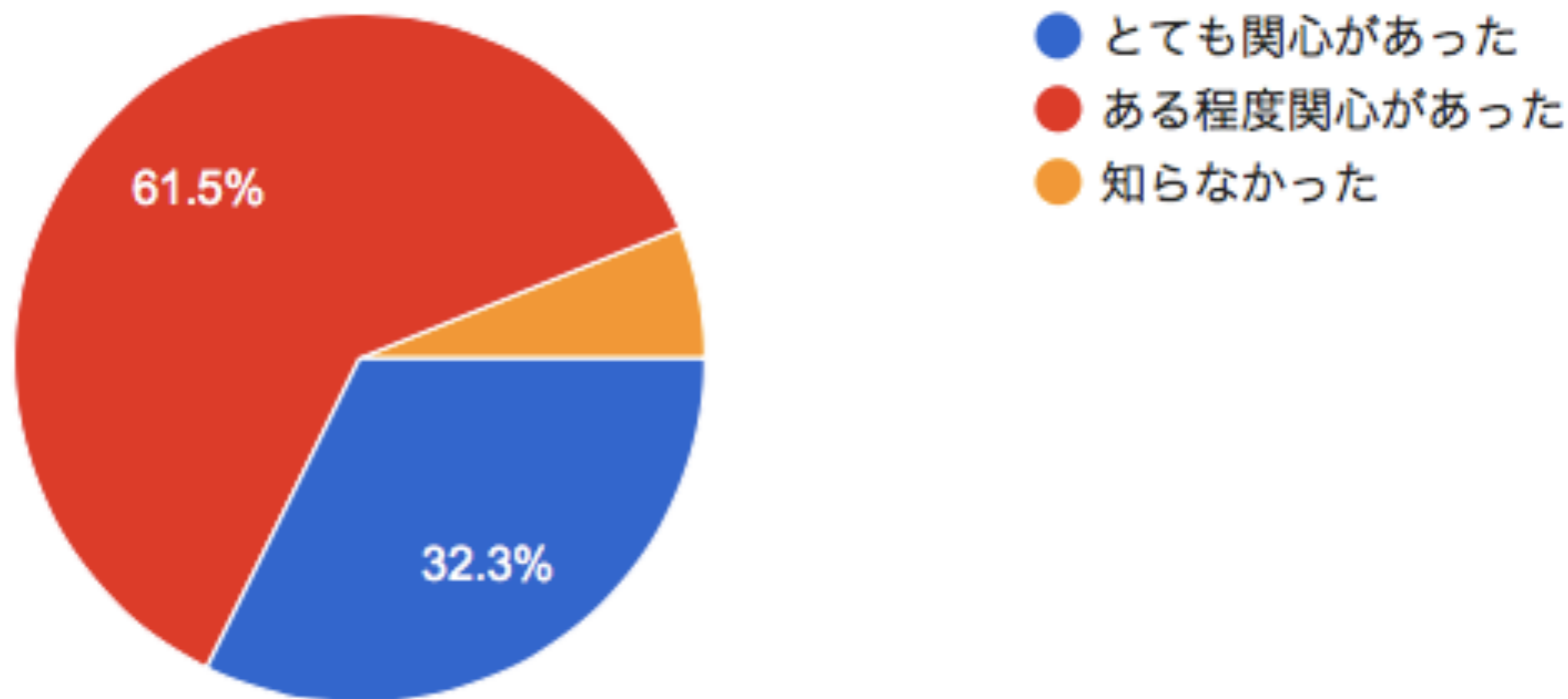
学会会議・天文月報の議論に関心のない人がそこそこ存在する

=>あまり記事が読まれていないのか？

=>敷居が高いと思っているのか？

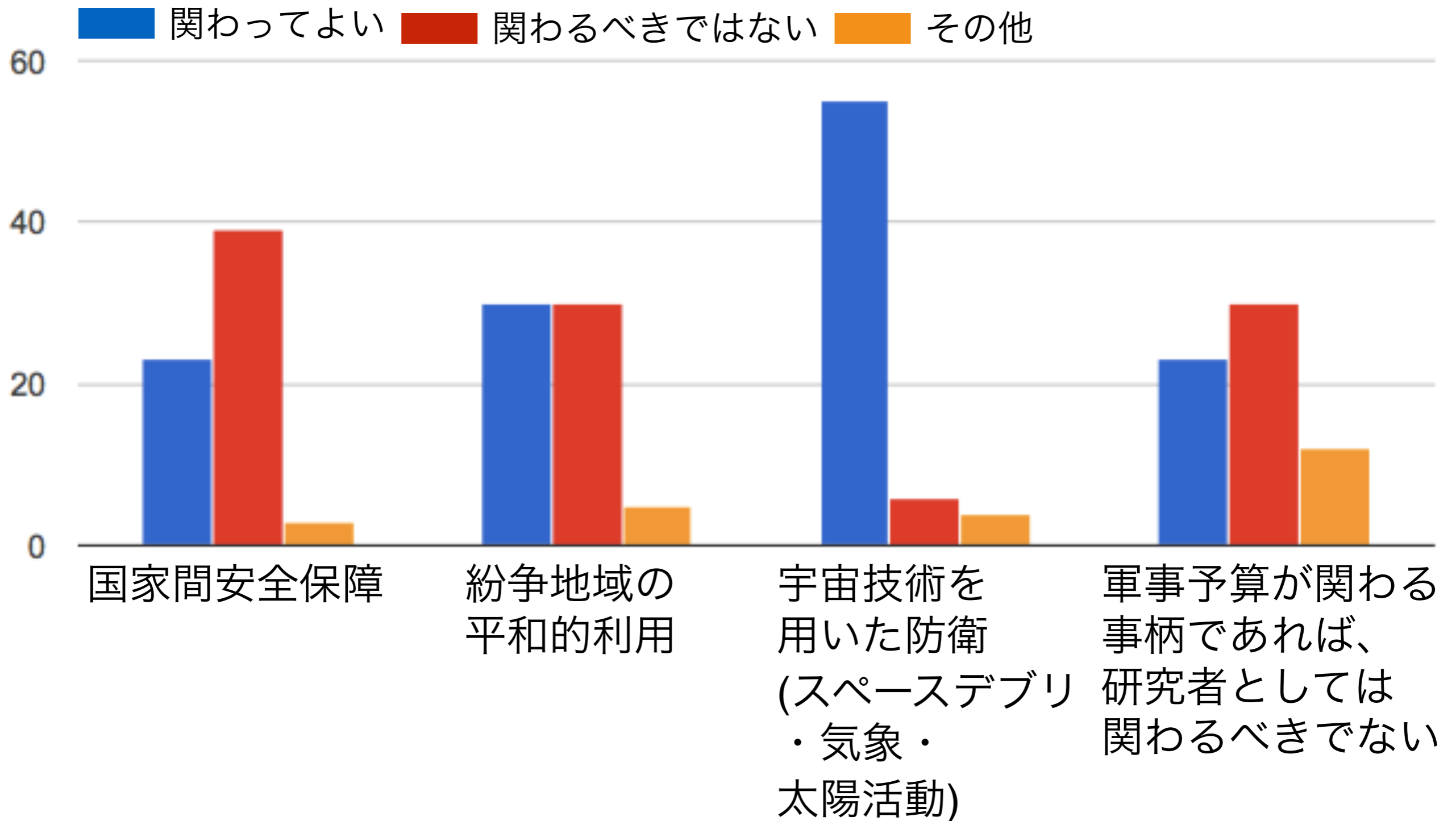
天文・宇宙物理の研究者が戦争に関わってきた歴史、あるいは衛星開発が軍事研究と表裏一体である現状について知っていましたか？

65 件の回答



歴史的背景に対する理解はある

個人として、天文学の研究と安全保障がどの程度まで関わって良いと思いますか？



意見

安全保障に積極的に関わるべき

- 学術への応用ができる
- 航空自衛隊の緊急発進が増えている手前、国防のためにも必要
- AO観測は米軍との連携が必要

安全保障に関わるのは反対

- 人をより効率よく殺傷するための研究はすべきではない
- 基礎研究は、その応用法で評価されるべきではない
- 科学は人や社会のためにあるなら、人や社会を脅かすものに関わるべきではない
- 良し悪し関係なく後世の議論の的になる

安全保障に関わるのは仕方がない

- 予算がなくなって天文学が途絶えるのは困る
- 平和的利用(スペースガード)のために必要

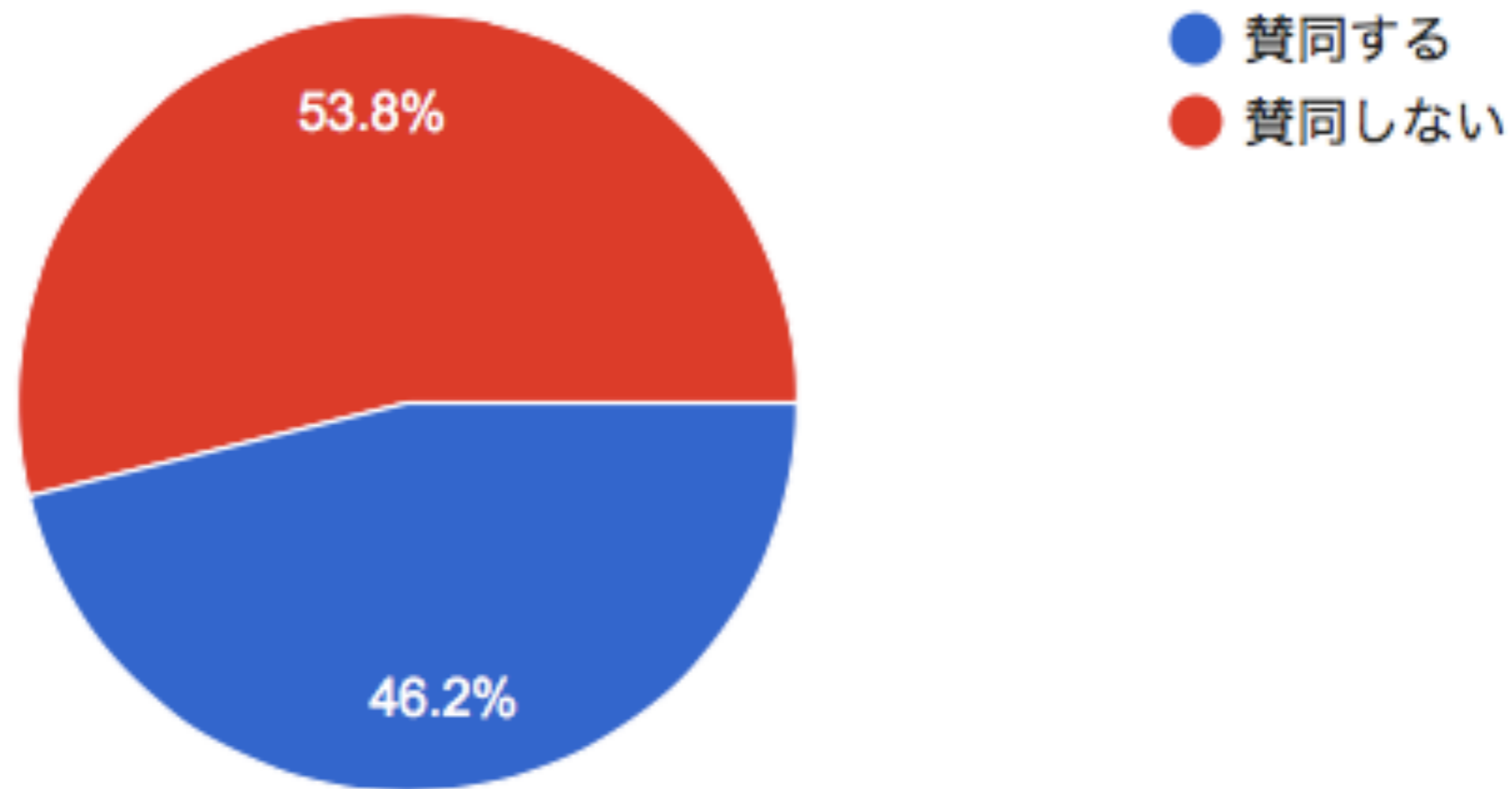
意見

若手研究者の意識の傾向

- 専守防衛のためならばよい
- 平和的利用のためならば必要
- 予算がなくなって研究できなくなることの心配
- 民意ならば仕方がない(純粋なサイエンスであるべきだが)

指導教員または所属する研究組織が
応募方針を立てた場合どのように対処しますか？

65 件の回答



意見

賛同しない

- 研究室を変えるor就職をする
- 間接的に殺人を犯す原因を増やす理由がない
- 他者の生命を脅かすことは人道的に許されることではない
- 倫理に反する

条件付き

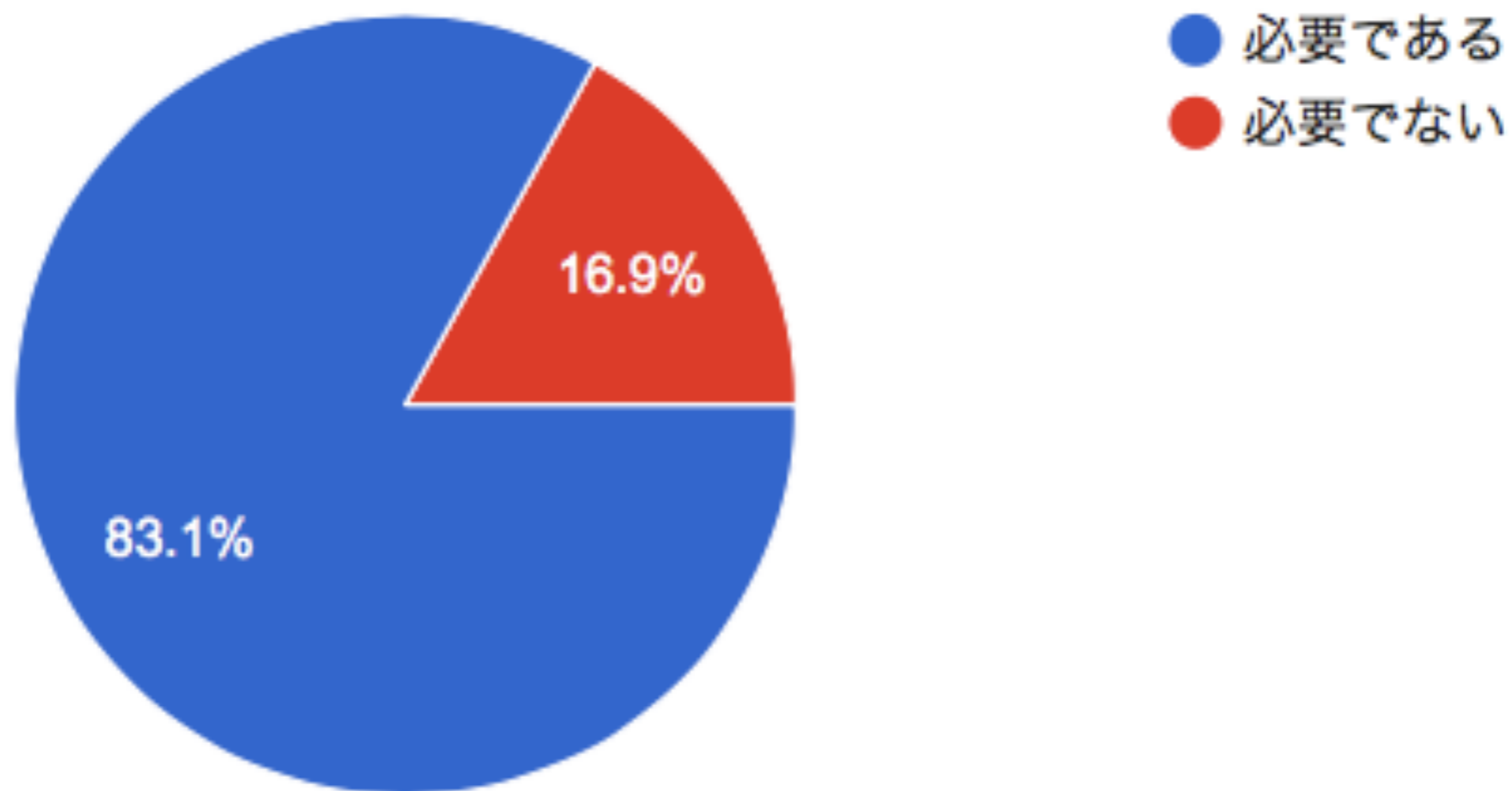
- 教員や組織の雰囲気によるが、破壊兵器等は反対
- 議論を為尽くしたならよい

賛同する

- 日本という国を守るために自身および所属研究組織が貢献できるのは光栄
- 防衛予算が悪い予算であると断定できない
- いつ研究内容についての制限が発生するかわからない

今回の制度に、研究組織や学会単位での議論は必要だと思いますか？

65 件の回答



意見

必要である

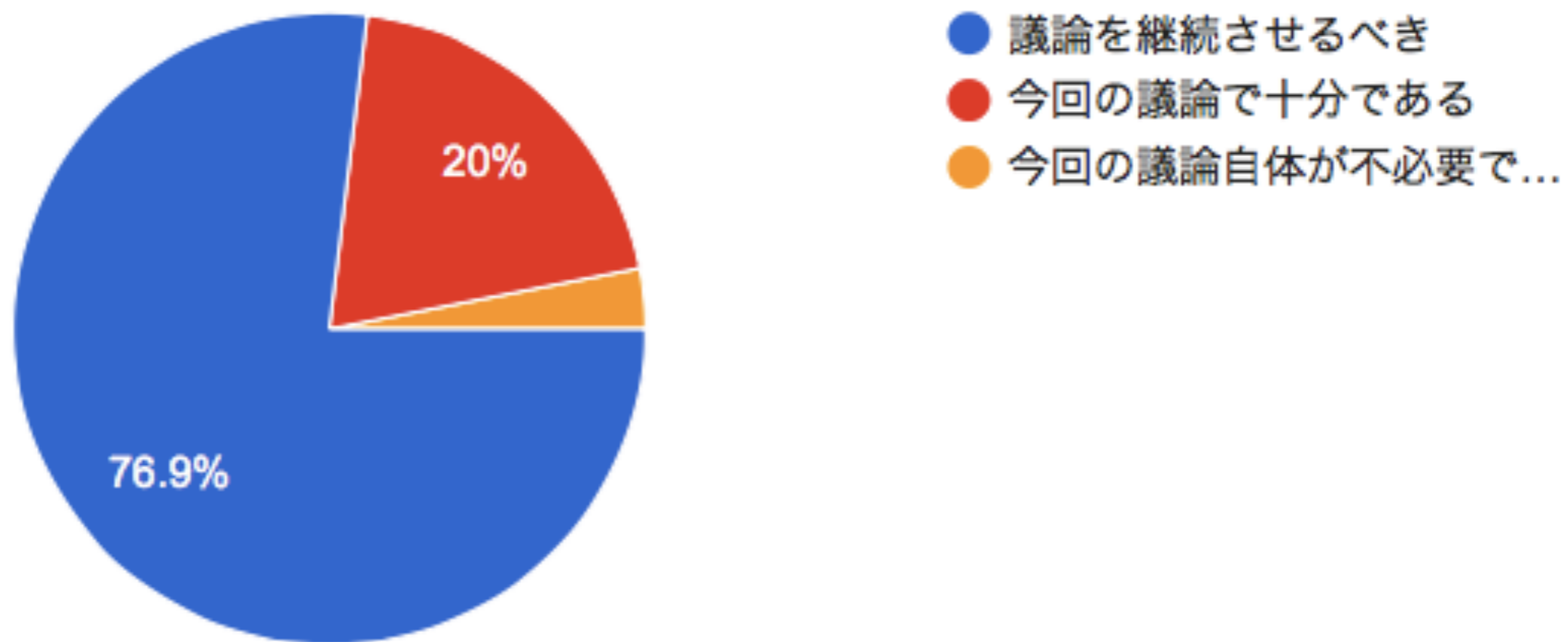
- それぞれの立場の考えを知ることが大事
- 研究者は無縁だと思いがちなので、議論を通しての気づきが必要
- 議論を通して問題の理解を深めるべき
- 議論を通して社会の中で倫理観を形成し、共有していく必要がある
- 個々の研究者の判断を超えた問題であるため
- 内輪での無用な摩擦を取り除くため
- 時が経てば構成メンバーが変わり、なぜ軍事研究に参加しない方針を出したのかを新たなメンバーで確認を行う必要がある

必要でない => 意見が存在せず

=>理由は様々だが、必要性を感じている

この議論を、天文学会として継続させていくべきだと思いますか？

65 件の回答



意見

議論を継続していくべき

- 一時間の経過や圧力によって、戦争で基礎技術が使用され人類の平和から遠ざかることになると思う。議論しないと悪い方向に進むのでは？
- 世界情勢に合わせた対応が必要
- 議論は風化するので折に触れて振り返るべき
- 過去の決定の確認を行うべきである
- 軍事研究であれば、内容如何に関わらず徹頭徹尾反対し、他の学会員にもそうした考える風潮が蔓延しないよう監視しなければならない

議論を継続すべきでない

- 各組織で議論の場を設けるのは難しいと思う

=>頻度に関しても個人で異なる

そのほか意見

- 基本的には防衛省からの「紐付き」の金はいらない
- 昨今、日本が置かれている立場はとても危険で、国民全体で考える必要があると思う
- どのような技術も知見も、それ自体は軍事的な有用性を持ちうる
- もしも軍事組織が開発・発見に関わりたいのであれば、独自の枠内で行えば良い

他の考え

- 基礎技術を研究する上で科学の負の面を制御することが科学者に求められている。ところが、最初から軍事や防衛の予算を使うと、その資金に対して依存することとなり、負の面が現れた時に制御や反対ができないのではないか？
- 国家安全保障や紛争地域の平和利用と天文学の関係性が理解できない
- 軍事研究に関わるか否かは個人が判断すればいいのでは？

まとめ

防衛省の安全保障技術研究推進制度について知っていましたか？

—No: 36.9% , Yes:63.1%

指導教員または所属する研究組織が応募方針を立てた場合
どのように対処しますか？

— 賛同する:53.8% , 賛同しない: 46.2%

安全保障技術研究推進制度に対して研究組織や学会単位での
議論は必要だと思いますか？

— 必要である:83.1% , 必要でない: 16.9%

今回の議論を天文学会として継続させていくべきだと思いますか？

— させるべき:76.9% , 十分:20% , 議論自体が不要:3.1%

若手研究者の意識の傾向

— 専守防衛のためならばよい

— 平和的利用のためならば必要

— 予算がなくなって研究できなくなることの心配

— 民意ならば仕方がない(純粋なサイエンスであるべきだが)